

オーステンパ球状黒鉛鑄鉄の高度化
(事後評価)

質問・意見

回答

| | | |
|-----|--|---|
| E委員 | 耐摩耗性が良いのはわかるが、靱性・剥離(超硬)は大丈夫ですか？ | 耐摩耗試験においては剥離は発生しなかった。また、靱性についてはペーナイト化温度を400 程度にすることで、十分対応できます。 |
| A委員 | 岩手大学の教授が実施した超硬の鑄ぐるみの研究と関連はあるか。 | 特に、共同して研究を実施しているわけではない。当センターの手法は教授の方法にさらに熱処理を加えたものです。 |
| | 一部手法が同じならば、共同で研究を実施してはどうか。 | 教授の手法は大企業向けの技術。当センターの技術ターゲットは中小企業。共同研究体制をとっていないが、情報交換は常に行っています。 |
| H委員 | 特許を取得するなど、蓄積された技術がある。それら技術を企業へ普及する際、協力企業とそうでない企業とでは支援方法は違ってくるのか？ | 協力企業への支援は継続して行っており、問題はないと考えています。その他の企業への支援については、協力企業とのパッティング製品でなければ支援していきたくて考えています。しかし、協力企業とパッティングするような場合は特許ロイヤリティの請求などで対処したいと考えています。 |
| G委員 | いくつかの応用事例が示されたが、全て製品化されたのか。 | 全てではありません。農耕爪は製品化されて生産量も多いですが、その他の製品化は担当者の配置換え等もあり、検討段階のものが多いです。路盤補修機用の製品は実用化の可能性が高いです。 |
| B委員 | 耐摩耗性の評価方法にはいくつかあるので、アプリケーションを踏まえた評価方法を選択しなければならない。 | その通りだと考えております。今回はピンオンディスクによる摩耗特性評価でしたが、サンドエロージョンなど別な方法による評価も考えております。 |
| | 工業技術センターの研究は学術論文を書くことだけが目的ではないと思うが、大学のCOEプログラムのように世界のトップレベルを目指すためにも論文を書くことは必要と思うが、どのようにお考えか。 | 技術普及や企業支援のためにも必要と考えています。しかしながら、本研究での2報は少ないと思っています。今後、企業支援をしていく中で、学術論文を書けるような試験結果がでると考えています。 |